

除塩で復活 緑の石巻

東日本大震災の津波被害を受けた宮城県石巻市で、住宅の庭の除塩を行っている静岡県富士市の樹木医、喜多智靖さん(41)が、学校など公共施設の樹木を救うNPO法人「樹木いきいきプロジェクト」を10月中にも設立する。24日も石巻市で除塩業務に奔走する喜多さんは「緑を取り戻す大きなうねりを巻き起こしたい」と張り切っている。

塩害で弱った木の近くで土壌サンプルを採取する喜多さん(先月9日、宮城県石巻市の市立天街道小学校で。喜多さん提供)

樹木再生や造園を営む喜多さんは今年4月、「津波で弱った庭木をよみがえらせたい」と、石巻市に事務所を設置。土壌中和や土の入れ替えなどの除塩を有料で請け負い始めた。個人から依頼を受け、1か月の半分を同市で過ごす。

営業で石巻市を自転車で走り回る喜多さんは、スギの屋敷林がほぼ全滅している光景を見てきた。公園や学校などではソメイヨシノやシラカバが枯れ、「切り株だけの公園もある」。

地元の行政担当者からは、宅地造成や道路、堤防などの整備を優先しており、除塩の予算がないと説明された。木々の緑や色鮮やかな花壇が人の心を癒やす力と思うと放っておけなかった。

6月、石巻市の小学校2校から除塩をボランティア

静岡の樹木医男性 NPO設立 月内にも

で引き受けた。樹木約30本が対象だったが、塩に対する耐性は木ごとに違い、塩分濃度は根の周辺の土を掘り起こさないとわからない。個々の根元の土壌サンプルを採取する必要もあった。

現地の事務所には従業員が1人しかいなかった。とても追いつかない。今も塩害で弱っていく木や草花があるのに……。NPO法人を設立し、人手と資金を確保することを決めた。静岡県内外の知人ら約10人を集め、8月、富士市に法人設立を申請。今後、石巻の造園業者にも声を掛ける予定だ。

喜多さんは「震災から2年半以上が過ぎ、被災地の人でさえ地中の塩分はないと誤解している」と指摘し、緑を取り戻す決意を新たにしている。問い合わせは同プロジェクト(0545・64・8426)。

